

「保育」の原点

子どもを祈る

1 970年頃、私の父であるアップ

リカ育児研究会創設者の葛西健蔵と、育児の神様といわれた内藤寿七郎博士と、マンガの神様であり医学博士でもあった手塚治虫氏、この3人が「あたたかい心を育てる運動」を始めたのでした。

高度経済成長の裏で進む人の心の貧困化に気づいた3人は、未来ある子どもに何より重要なのが「あたたかい心」を育てることだと指摘し、立ち上がりました。この運動のひとつに「子どもを祈る」という活動がありました。

子どもは未来と現在と過去との橋渡しである。

ご先祖だけを祈っていたのではダメだ、とよく3人が言われていたのを覚え

ています。

「子どもを祈る」という行為は子どもの成長にも役立つのです。例えばお母さんが「子どもを祈る」ことでお母さんに心の安定が生まれます。それが子どもにも作用して、子どもの心も安定し、学力が上がります。能力開発にも繋がっていくというのです。それを母子相互作用というのだそうです。

「子どもを祈る」ということは自分の心の問題だけでは無さそうです。

子どものいない家庭は他人の子どもを祈る。

さかのほれば、みんなのDNAは繋がっている。

昨今、虐待であるとか子どもに関するいろいろな事件が多発しています。このような時代だからこそ3人の思いをマザーシップ保育園で実行したいと考えています。

第一段階として、心齋橋の社会福祉法人松稲会中央本部のビルの壁面に「アトムが子どもたちを祈る絵」を黒田征太郎氏に描いていただくと考えています。

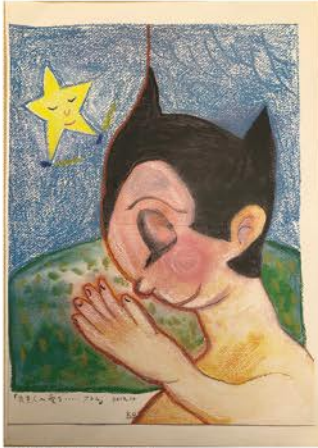
この場所から、子どもを思う心や文化

文
葛西得男

text by Tokuo Kessai

が芽生え、広がっていきばいいなと思っています。

葛西健蔵、内藤寿七郎先生、手塚治虫先生の思いを黒田征太郎氏によって表現していただく。きつと3人にも喜んでもらえると思います。



子どもを祈る アトム

Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松稲会 理事長に就任。
松稲会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。
アップリカ葛西 副社長時代に国連 UNEP 環境計画のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

